

お母さんの

アンテナ

診療所スタッフの
初めての保養体験記

昨年の夏に友人家族と初めて桜川市（茨城県）に保養に行きました。一言でいうと、福島の人、子ども達のことをよく考えてくれている人達の集まりに感動でした。参加者よりボランティアの方が多くてずっと子ども達と遊んでくれました。

また、食べ物も大変、気を使ってくれていました。産地や無農薬の食品、ちゃんと検査して安全な食品をこだわって使ってくれていました。自分の両親と同世代の方々が安全な食品にこだわって出してくれたことが本当に驚きでした。

帰るとき、子どもたちは手紙を書いて別れを寂しがりました。それまで県外に行くと差別されるのではないかと怖かったのですが、保養に行って本当に良かったです。

私たちが
春休みの保養
計画です！

～乳腺エコー検査を受けました～
30代女性

①電話予約

電話をして職場が休日である土曜日の11：30から予約を入れました。土曜日は女性の技師が担当なので安心しました。

②問診＆エコー検査

医師の問診後、女性の技師によるエコー検査。検査箇所塗るゼリーが温められていたので、ヒヤッとすることはありませんでした。このような細やかな配慮からも、丁寧さを感じました。

ゆっくりとプローブを押し当てての検査は、全く痛みはありませんでした。映し出された画面を見ながら「これは脂肪ですよ」「乳房ですよ」とわかりやすく説明してくれました。20分ほどでエコー検査は終了。

③説明

検査後、画像を見ながら医師から説明を受けました。私の場合、現在のところ異常は確認されませんでした。エコーの写真ももらいました。職場の同僚にも勧めています。

お知らせ

早期発見、早期治療
乳腺エコー検査やってます！

＊検査実施日 金・土曜日

※土曜日は女性スタッフが検査を担当します

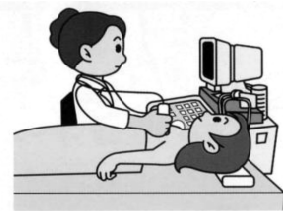
＊診察時間 午前 10：00～12：30
午後 2：30～ 6：00

※お一人さま30分程

＊窓口負担 1900～2500円

- ・乳がんは、女性のかかるがん第一位。
- ・特に40歳以上の方、年一回の検査をおすすめします。

- ・エコー検査は、放射線被ばくがなく、痛みもありません。



お問い合わせ、ご予約はお電話でどうぞ
024-573-9335

編集後記

4年目の3・11に向けて強まる、根拠のない安全・安心キャンペーンと帰還の強制。福島の小児甲状腺がんの多発には「チェルノブイリで健康被害が現れたのは4、5年目から」と言っておきながら、その4年目を前に「放射線の影響はない」と安全宣言をする医師や政治家に私たちの未来は任せられない。安倍政権は人の命をなんとも思っていない。（え）

3.11反原発福島行動'15

再稼働 戦争 首切り もうたくさんだ
怒りを力にたちあがろう つながろう

と き：3月11日（水）12時～

ところ：郡山市文化センター・大ホール
集会後郡山駅までデモ行進



私も呼びかけています。
みんなで参加しましょう！

詳細はこちらをチェック！

3.11反原発福島行動ブログ

<http://fukushimaaction.blog.fc2.com/>



ふくしま共同診療所 Newsletter

ここから通信

第8号 季刊-冬号-



診療時間：9：30-12：30/14：30-18：00

	日	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	-	●	●	●
午後	●	-	●	-	●	●	●

診療科目：内科/放射線科/循環器科/リウマチ科

〒960-8068

福島市太田町20-7 佐周ビル 1階

TEL：024-573-9335 FAX：024-573-9380

昨年12月1日、ふくしま共同診療所は、皆様のご支援のもと開院2周年を迎えました。当院での甲状腺エコー検査も延1000人を超え、みなさまの信頼を得る診療所となるよう努力を重ねてまいりました。

このたび院長を交代し新体制で診療所運営を実施していくことになりました。松江寛人前院長は、名誉院長に、布施幸彦医師が後任の院長となります。今後よろしくお願いいたします。

布施 新院長 あいさつ



布施 幸彦 院長

<略歴>

1980年 杏林大学医学部卒業
1981年 群馬大学附属病院第2内科研修医
1982年 国立高崎病院内科医
1986年 館林厚生病院内科医長
2007年 同病院副院長

ふくしま共同診療所の院長になりました布施幸彦です。昨年11月より松江前院長からバトンを引き継ぎました。

私は、ふくしま共同診療所開院当初より、週末の担当医師として、福島に通い続けながら2014年3月まで群馬県館林市にある館林厚生病院副院長として、主に内科・循環器医療に携わってきました。政府による東日本大震災と原発事故災害への対応は、いまだに十分なものではなく多くの方が不安を抱え、4年目を

迎える現在も住まいを失い不自由な仮設住宅での避難生活を強いられている方もおられます。

原発事故による子どもの甲状腺がんや白血病がとりわけ心配されますし、心臓、呼吸器、消化器など生活習慣の変化による様々な疾患の発生も予想されます。持病の悪化や新たな病気の発生など健康を脅かす要因は数多いと思われます。

当院は、震災や原発事故により予想される健康被害に真正面から取り組むべく、国内、国外から寄せられた募金によって設立されました。

子どもからお年寄りまでのあらゆる方々の全身の健康をチェックし、「健康と命を守る」ために一身を賭して取り組んでまいります。地域の皆様をはじめ、ご支援とご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

仮設住宅を訪問し、
健康相談会も行っています。



被曝・医療 福島シンポジウム

いま、福島で何が起こっているのか？

と き：3月8日（日）13時～

ところ：ホテル・福島グリーンパレス（2階・瑞光の間）JR福島駅西口徒歩3分

<パネリスト>

- ・崎山比早子（高木学校、国会事故調査委員会委員、医師）
- ・山田 真（子どもたちを放射能から守る全国小児科医ネットワーク、小児科医）
- ・金 益重（韓国東国大医学部教授、韓国反核医師の会運営委員）
- ・布施 幸彦（ふくしま共同診療所院長、循環器・内科医）
- ・福島で暮らす住民

<ビデオレター>

【ドイツから】核戦争防止国際医師会議（IPPNW）会長代理 アレックス・ローゼン

主催：被曝・医療 福島シンポジウム実行委員会

<参加費>

一般1000円
医師2000円
学生 500円